

まほうのつえ

荒川 薫

ワタルは元気な五さいの男の子です。

まえは、にぎやかな町の中にすんでいましたが、今はひっこしをして、町はずれのしずかなところにくらしています。

家の近くには畑があったり、竹やぶや木がしげっている丘があったりします。ワタルはそういうけしきが、めずらしくてしかたありません。

ある秋ばれのにちよう日です。

「そうだ！ 今日（きょう）はひとりでたんけんをしよう」

ワタルは近くの丘へたんけんに行くことにしました。

「いつてきまーす」



ワタルは元気よくかけました。

ちよつと歩いていくと、道ばたに木のえだがおちていました。まっすぐで、はしっこがまるくこぶのようになっていて、とても持ちやすいぼうです。

ワタルは、さっそくそれをつえにして、じめんをトントントンとついでみました。なんだかわくわくして、すてきなことがおきるような気がしてきます。

「わあ、まほうのつえみたい。よし、これをもっていこう」

トントン たんけん
トントン たんけん

つえをつきながら、ちようしよく歩いていくと、じきに丘をのぼる道にやってきました。

まわりには木がたくさん生えていて、うすぐらくなっています。ほそいさか道がてっぺんの方にむかっています。でもつえがあるので、さか道もどんどのぼれます。

トントン さかみち
トントン さかみち

そのうち、おちばがいつぱいの道になってきました。つえをつくとシヤクシヤカ、ワタルが歩くとジャクジャカ。おもしろい音がします。

シヤクシヤカ ジャクジャカ
さかみち たんけん

「あとすこしで、てっぺんだ。何が見えるかなあ」

シヤクシヤカ ジャクジャカ
さかみち たんけん

「さあ、ついた、よいしょっ！ あれっ？ ここは……けやき公園みたい……」

ワタルは目をまんまるくしました。丘をのぼって高いところに来たと思っていたのに、ついたところは、幼稚園のえんそくで来たことがあるけやき公園のしばふひろばなのです。

そして、もつとびつくりしたことに、用事で出かけて



いたお父さんが、ひろばのむこうから歩いて来たではありませんか。
お父さんは
「ただいまー。もう帰るとこだよ。バス通りを歩いて行くより、この公園から、さか道をおりた方が、家へ帰るちか道なんだ。はい、おみやげー」
と、ワタルに、おみやげのケーキの箱をわたしてくれました。

ワタルは、びつくりするやら、うれしいやら。

「ありがとー！」といいながら、つえを、いきおいよく

トントン トント
ン！ と、なんども
なんどもつきました。
ほんとうに、すて
きなことがおきたの
です。

帰りは、つえをお
父さんにかけてあげ
て、ワタルは、おみ
やげをしつかりだい
じに持って帰りまし
た。
(おしまい)